

シンポジウム「都市と農山村の共生による
新しいライフスタイル」の開催について

主催：日本学術会議 農業総合科学研究連絡委員会

共催：日本学術会議 都市・農山漁村パートナーシッ
ブ専門委員会

開催日時：6月25日（土）午後1時～5時

開催会場：名古屋大学 野依記念学術交流館

参加費：無料

問い合わせ先：農業総合科学研究連絡委員会委員長
shiyomi@mx.ibaraki.ac.jp

1960年代以降、急速な産業構造の変革ともなって、国内における食糧生産・人口構成・国民所得等に占める農業の地位は大きな変化を遂げてきました。近年、農業は食糧生産や農村社会の問題としてだけでなく、農業が自然保護や環境問題、農村文化、国民の憩いの場や教育の場として果たす役割が大変大きいと考えられるようになり、これまで進められてきた食料生産中心の農業・農村政策は見直されようとしています。

このような農業・農村政策の新しい流れは、多くの農村に居住している人々と、農業生産物と農村の文化や環境を現在享受し、今後享受しようとしている都市住民との相互の協力があるから可能になるのです。例えば、都市住民との「安全な」食料の需要・供給関係は、生産者と

消費者の信頼関係がないところではなり立ちません。また、わが国の人々は古くから、水田にみえる黄金色の穂波に心をいやされ、青々と茂る山野の美しさに心を奪われてきました。農業や農村と都市はこのように深いつながりをもっています。農村と都市の連携によって、わが国の食料生産と風土や伝統文化を守り、農村と都市の新しいきずなを結ぶために、シンポジウムを企画しました。

講演（題目ならびに順番は暫定）

- 「心豊かな里作りによる都市住民との交流」
高橋 幸照 氏（水土里ネット立梅用水事務局長）
- 「食と緑が支える豊かなくらし」
林 錡 氏（愛知県農業大学校長）
- 「森林における様々なライフスタイル」
永田 信 氏（東京大学教授・農学部付属演習林長）
- 「素人たちが再生する山村の暮らしと農林業」
丹羽 健司 氏（東海農政局統計部統計管理官、
NPO都市と農山村交流スローライフセンター理事）
- コメンテーター
波川 祥子 氏（横浜国立大学名誉教授、聖徳大学
教授）
山下 興亜 氏（中部大学副学長）
中川昭一郎 氏（東京農業大学客員教授、元日本学
術会議会員・第6部長）